

産

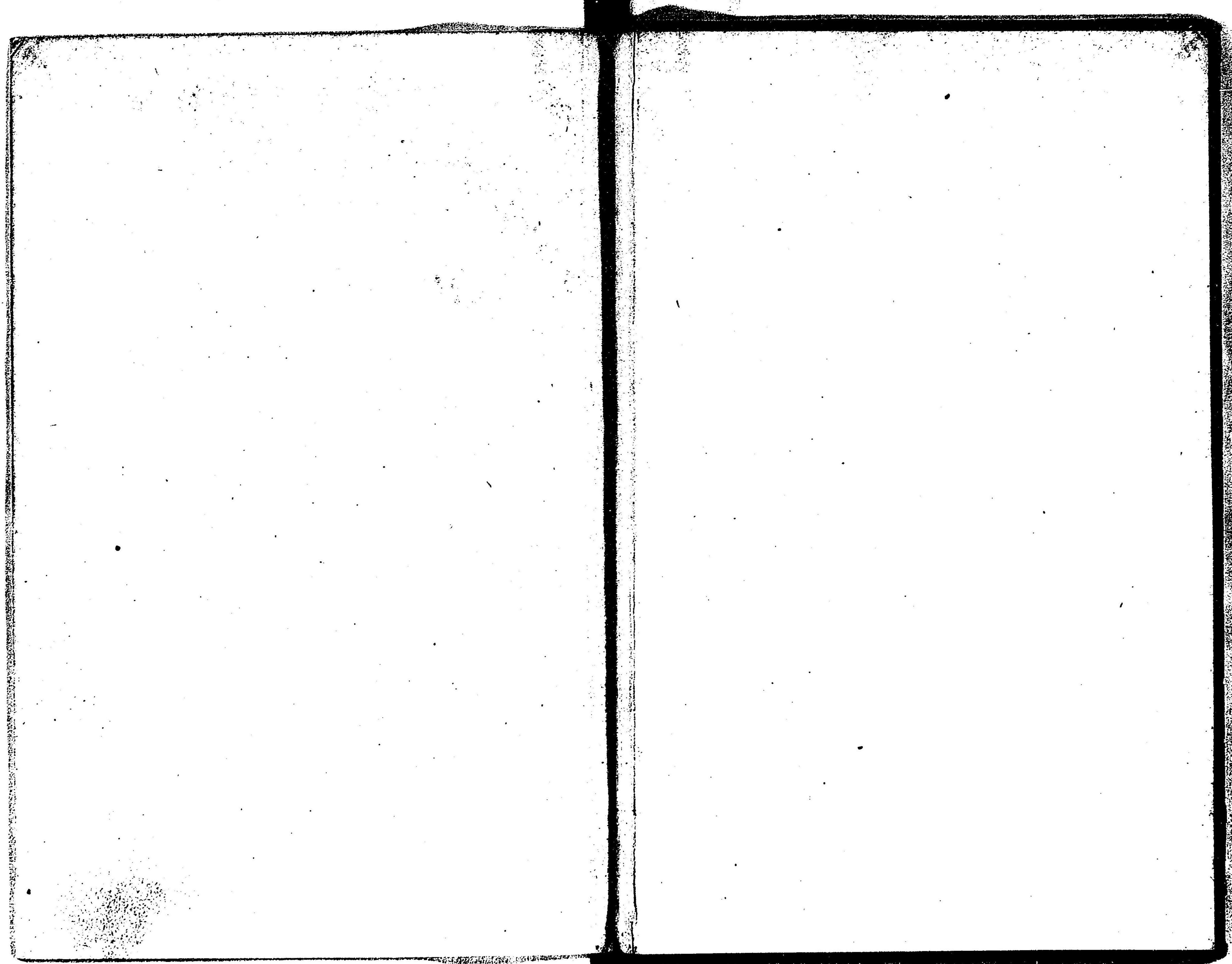
21

鈴木桂藏著

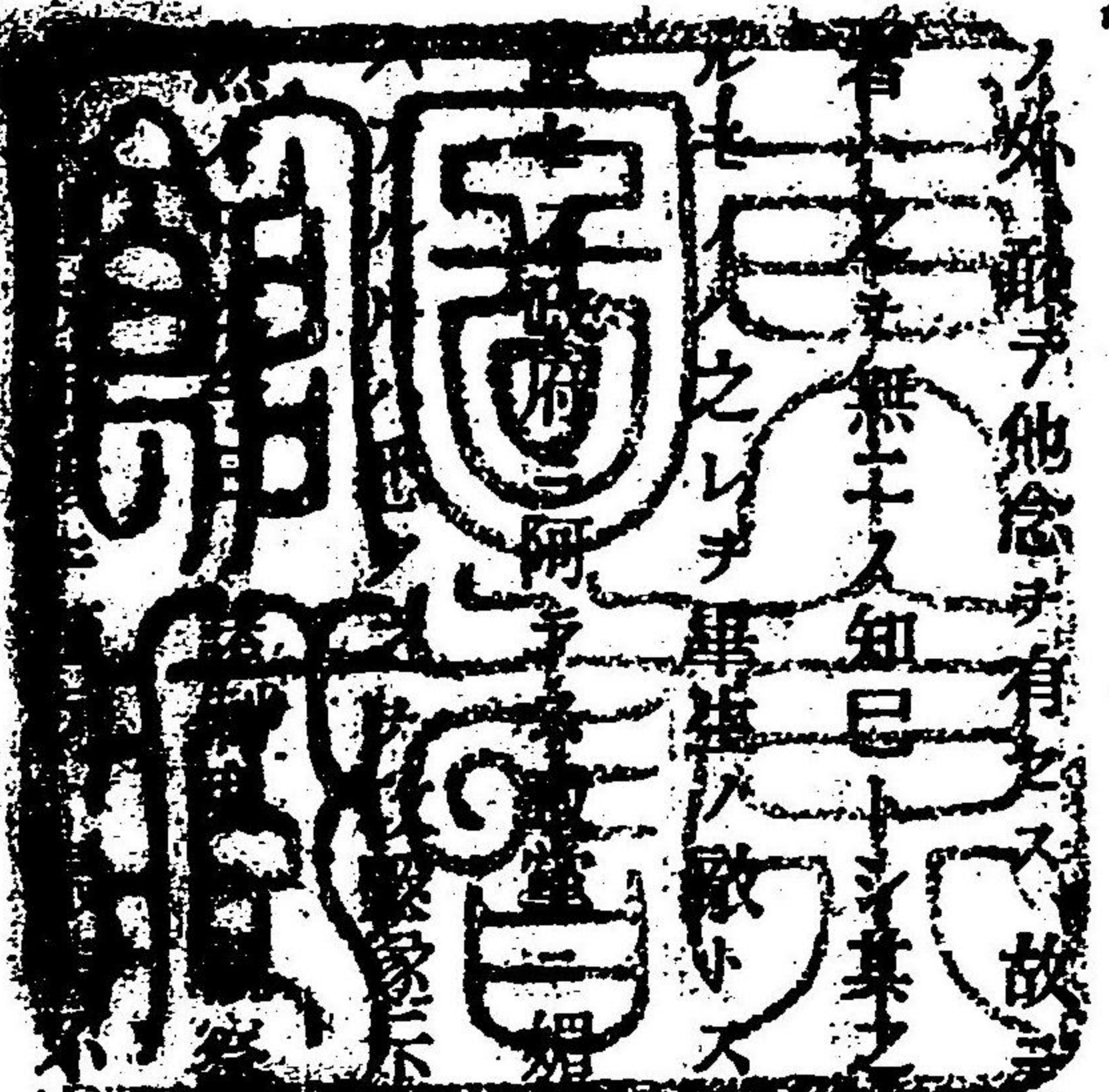
日本山林制度論

附栽培方法

全



1427/100



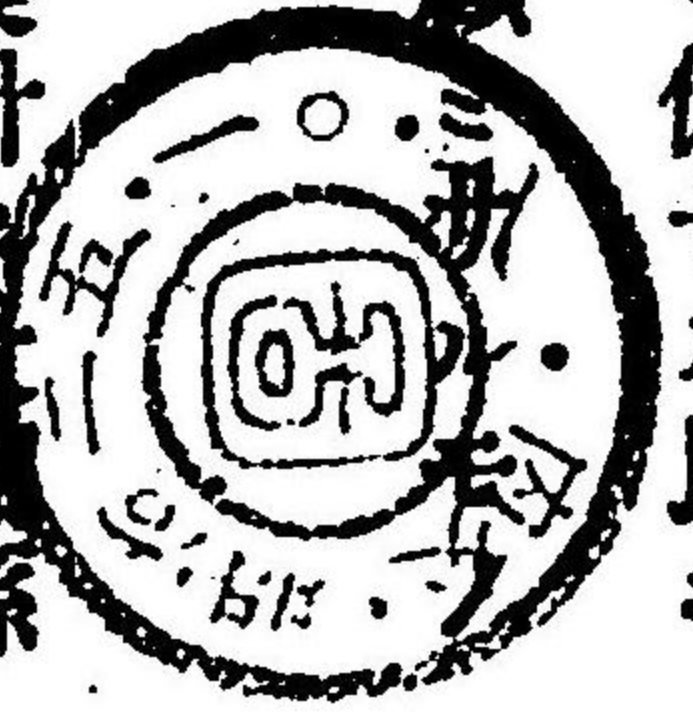
予カ一片ノ精神ハ、唯國家ヲ思ヒ、國民ヲ愛シ、殖産興業ヲ隆盛ナラシメント欲スル

外他念ヲ有セズ故ニ世人ノヨク國家ヲ思ヒ國民ヲ愛スル殖産興業ヲハカル
者之ヲ無キ人知已トシ其ノニ反シ國家ヲ思ハス國民ヲ愛セス殖産興業ヲハカラサ
レ之レヲ畢生ノ敬トス人ヲ論スル只是ヲ以テ好悪ヲ分ツノミ官ニ偏セス民ニ
不
完
全
ニ
シ
テ
毎
年
利
害
得
失
相
償
ハ
サ
ル
ヲ
察
知
ス
之
ニ
由
テ
自
ラ
量
ラ
ス
大
ニ
憂
慮
シ
テ
以
テ
將
來
實
施
ス
ル
制
度
ヲ
悉
ク
調
査
シ
以
テ
能
ク
森
林
ノ
事
業
ヲ
鞏
固
ニ
シ
國
利
民
福
ヲ
詢
ラ
ン
ト
ス
是
今
日
ノ
急
務
一
日
モ
忽
カ
セ
ニ
ス
ハ
カ
ラ
サ
ル
ヲ
以
テ
也
今
山
林
制
度
論
ナ
ル
モ
ノ
ヲ
發
兌
シ
テ
以
テ
之
ヲ
世
ニ
問
ヒ
輿
論
ニ
質
シ
テ
以
テ
國
家
百
年
ノ
計
ヲ
盡
申
ン
ト
ス
是
著
者
ノ
微
忱
也
ト
云
爾

自ラ量ラス大ニ憂慮シテ以テ將來實施スル制度ヲ悉ク調査シ以テ能ク森林ノ事業ヲ
鞏固ニシ國利民福ヲ詢ラントス是今日ノ急務一日モ忽カセニスハカラサルヲ以テ也
今山林制度論ナルモノヲ發兌シテ以テ之ヲ世ニ問ヒ輿論ニ質シテ以テ國家百年ノ計
ヲ盡申ントス是著者ノ微忱也ト云爾

明治二十五年十月

著者 識



日本林政起原

先哲曰ク大日本帝國林政ハ太古素盞鳴尊新羅ヨリ還リ玉ヒテ諸々ノ木種ヲ植エ玉ヒシ時其御子五十猛命及其妹抓津姬命大屋津姬命モ力ヲ合セテ其事ニ力ヲ盡サレシカハ大八洲ノ國中青山ナラヌ所ハナキ迄ニ至リキサテ此ノ四神共ニ紀伊ノ國ニ鎮座マシマセリ其ノ故ニヤ紀伊ハ天下良材ノ生ス所ナルヲ以テ木ノ國トモ云ルナリ其後應神天皇ハ皇子大山守命ヲ勅シテ天下山林ノ政ヲ總轄セシム玉ヒ又天下諸國ニ山守部ヲ定メ玉エリ山守部トハ朝家ノ山林ヲ守ル所ノ人民ナリ其人民ヲ掌ル役人ヲ山部連ト申セリ其諸國ノ山部連ノ上ニ在リテ夫々ヲ支配スルハ即チ大山守命ノ皇子ニテアリケルナリカ、レハ古ヘヨリ山林ノ政ノ重大ナルハ事實ノ證ヲ知ルニ足レリ

山林管理方經濟

謹テ按スルニ我日本帝國山林ハ古來國家ニ偉大ノ關係ヲ有シ從テ其保衛等ニ特殊ノ政略ヲ運用セシ所以モノ之レヲ史葉ニ徵スルモ得テ蔽フヘカラサルノ事實ニシテ中世以降封建ノ勢ヲナスニ及ンテモ各諸侯ニ於テ厚ク意ヲ注キ種々ノ方按ヲ講究セリ

其中或ハ精粗繁簡ノ差異ナキニアラスト雖モ之ヲ要スルニ悉ク數百年來ノ實驗ニ依リ焦心苦慮以テ計策セラレシ故ヲ以テ其宜キヲ得タルモノ知ルヘキナリ然ラハ則立憲ノ制度ヲ實行スル今日ニ當テモ亦宜ク其舊慣遺例ヲ酌量シテ之レカ方法ヲ策盡スル所ナルヘカラス然リト雖モ其等竊ニ我政府ノ年來山林ニ對セル處置ノ方針ヲ觀察スルニ專ラ範範ヲ歐洲數邦ノ制ニ取り所謂舊慣遺例ヲハ秋毫モ顧慮スル所ナキモノ、如シ其等泰西諸邦ノ制度ヲ模倣スルヲ非トスルニアラサレモ毎歲得失ノ相償ハサルヲ奈センヤ實驗ニ長ケタル各府縣知事等ハ蓋シ此等ニ見ル所有テカ去シ明治二十二年地方官諮問會ニ於テ頗ル其得策ヲササル理由ヲ論述スレモ政府ハ之レヲ採納セズ益々外邦ノ林制ヲ皇張シ各府縣所管ノ區域外ニ更テニ大小林区署ナルモノヲ設置シ之レカ爲メニ毎年七十萬圓餘ノ巨額ヲ消費シ尙且ツ將來ニ要スル費額モ亦將ニ容易ニ豫測スヘカラサラントスルノ傾アリ是豈ニ策ノ得タルモノト言フヘケンヤ抑モ我邦現時ノ實況ヨリ推考スレハ可及的政費ノ節減ヲ感スルノ今日ニ在リテハ最モ之レカ改良ヲ企圖セサルヘカヌス今某等ノ愚考ヲ以テスレハ宜シク其ノ管理ノ方

法ヲ舉ケテ之レテ各地方廳ニ委託スルヨリ善キハナカルヘシト信スルナリ果シテ之
 ナ各地方廳ニ委託スル以上ハ其利便タルヤ一ニシテ足ラスト雖モ姑ク其重ナルモノ
 ナ舉ケレハ經費ノ減縮ハ固ヨリ多言ヲ待タス取締ハ寧ロ嚴重ニ至ルヲ得ヘク採伐ハ
 寧ロ節序ヲ逐フテ得ヘク栽植ハ寧ロ疾早ナルヘク測量ハ寧ロ輕便ナルヘク處置ハ寧
 ロ敏捷ナルヘキハ某等斷シテ直言ヲ憚ラサル所ナリ且ツ退テ大小林區署官制ヲ熟察
 スルニ其掌理スヘキ任務ハ纒カニ左ノ數項ニ出テサルナリ

- 一 官林賣拂及貸渡ニ關スル事
- 二 官林境界調査分合ニ關スル事
- 三 官林ノ施行ニ關スル事
- 四 官林ノ產物賣拂ニ關スル事
- 五 小林區署業務監督ニ關スル事

以上大林區署

- 一 官林保護ニ事スル事
- 二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事
- 三 官林ノ產物採取賣拂ニ關スル事
- 四 官林ノ測量製圖ニ關スル事

以上小林區署

此ノ如クナルヲ以テ各地方廳ヲシテ分掌セシムルモ決シテ停滯ノ慮アラサルヘキナ

リ人或ハ曰ハシ若シ此等ノ業務ヲ各地方廳ニテ分任スルハ則國家畫一ノ制度ヲ施
 クニ於テ統率スル所ナカルヘシト是レ毫末モ憂慮スルニ足ラサルナリ例ハハ重要ナ
 ル措置ハ毎ニ山林局長ニ稟議シ農商務大臣ノ許可ヲ待テ施行スルノ規定ヲ設クルニ
 至リテハ復タ何ノ妨ケカアラシヤ况ヤ本年度ノ豫算ニヨレハ全國森林ノ收入ハ七十
 二萬圓餘金アルカ如クナレバ地所建物其他ノ拂下貸下ニ係ル部分ヲ扣除セハ其純益
 トシテ見ルヲ得ヘキモノ儼ヤタルニ過キサルヲヤ而シテ其林區署費ヲ詳述スレハ五
 十二萬九千圓餘ニシテ其内造林費及林產物處理費九萬圓ヲ除去スルモ四十三萬圓餘
 ノ巨額ヲ要セサルヲ得ス今之レヲ地方廳ニ移シ專務ノ屬吏監守等數名ノ外書記官若
 クハ專門ノ技師及上級ノ屬吏ヲシテ其事務ヲ兼帶セシメハ必スヤ經費三分二ハ立所
 ニ省減スルヲ得ヘキナリ若シ夫レ官民林ノ區域境界査定設林ノ調査山林原野臺帳ノ
 帳製ニ至リテハ既ニ廿三年度ニ於テ十六萬圓餘ヲ投シテ其整備ヲ完結セルヲ以テ各
 地方廳ニ於テ主掌スルモ國家統一ニ不便ナル條理アラサルナリ某等ノ痛歎スル所ハ
 是ニアラスシテ寧ロ明治卅二年勅令第六十九號ノ官有森林原野及產物ヲ競爭ニ付セ

ス隨意ノ契約ヲ以テ貨渡又ハ賣渡ヲ得ルトスルノ規定ナリトス凡ソ是等ハ一應府縣
參事會等ノ評定ヲ經ヘキハ固ヨリ穩當ノ處置ナリ公平ノ理ナリ安ソ輕々看過スヘキ
事ナランヤ以上ノ理由存在スルヲ以テ某等敢テ僭越テ願ミス諸士ノ判定ヲ請フテ自
治ノ精心ニ基キ邦家百年ノ大計ヲ策畫セラレシコトナ

山林殖樹方法

吾國山林ノ現況ヲ觀察スルニ民林冗トシテ官林栽培上ニ盡スト雖モ整頓完カラス此
時ニ及ンテ此レヲ救濟セズンハ國家ノ大憂復タ言フ可ラサルニ至ラン今其ノ救濟ヲ
爲スノ急ナル之レ溺ヲ極ヒ熱ヲ救フニ譬フ然ラハ則其方策如何シテ可ナランカ即チ
蕃殖ヲ謀リ是ナリ夫レ手段ハ千差萬別得テ枚擧ス可ラスト雖モ擇テ取ニ非レハ或ハ
一方ニ向テ蕃殖ノ利益ヲ興フルモ一方ニ向テ禍災損失ヲ生スルノ患アルヲ免レス禍
害損失アルヲ免レサルハ山林蕃殖ノ利益ハ利益アリト雖モ信ノ利益ニ足ラサルナ
リ故ニ禍害損失ノ患アラサルヨリハ直ニ取テ之レヲ實地ニ施スノ遲緩ス可カラサル
ノ時機ナルヲ信スルナリ

夫レ山林蕃殖ヲ要セハ官有原野ニ殖樹スルニ若クハナシ今概シテ官有原野ノ地積ハ
縱令函館根室札幌沖繩ノ四縣ヲ除クモ其廣大ナル余カ事ノ言ヲ俟タス而レ此ノ原
野ハ何如ナル使用何如ナル効用アルヤヲ考フルニ年々蔓草ノ春雨ニ茂リ秋霜ニ枯レ
タルノミ是レ用ヲ爲サルニ非ラス用ヲ爲サシメサルナリ然レモ今ヤ是ヲ精査セハ或
ハ必用必需ノ地アルヘシ故ニ之ヲ調査スヘキハ言ヲ俟タサル也而シテ其廣大ノ地ヲ
要スルモノハ秣場ニ在リ而シテ從來ノ秣場ナルモノハ果シテ實際必要ナルヤ否ヤヲ
觀察スルニ甲乙互ニ芟採ノ權ヲ爭ヒ叩リニ廣大ノ地盤ヲ占メ一寸ノ地一束ノ株ト雖
モ他方ヨリ人民來リテ之ヲ使用シ之ヲ芟採スルモノアレハ忽チ竹槍席旗ヲ以テ之ヲ
爭フノ弊ヲ免レス故ニ今秣場取條例ヲ制定シテ之ヲ制限セハ竟ニ其ノ弊ヲ除キ廣大
ナル空地ヲ生スヘシ夫レ官有原野ハ廣ク且大ナリ此ニ植樹スルノ費用ヲ國庫ニ求メ
ント欲スルモ恐クハ之ヲ給與スルノ餘裕ナカラン縱ヒ餘裕アルモ事ニ順序アリ業ニ
緩急アリ今政府カ山林蕃殖ニ意ヲ注クモ先其主管即チ現在官林ノ栽培整頓スルノ後
ニ非レハ原野ニ着手ス可ラサルヤ明ナリ於之現官林ノ實況如何ヲ察スルニ函館根室

札幌沖繩ノ四縣ヲ除キ官林ノ地積凡ソ七百萬町歩餘ナリ而シテ其概查ヲ了シタリ官
林ノ報告ニヨレハ一段歩ノ立木大小平均二百五十五本餘ニシテ其寡少ナル言ヲ俟タ
ス今中等林相を見ルニ一畝歩ノ立木六本内外即チ壹町歩ニ付六百本内外ニアリ依之
觀レハ之官林地積凡七百萬町歩ノ半額三百五十萬町歩ハ無立木ノ地タルカ如シ一畝
歩六本割合タリ大木ニアリテハ至疎トナスヘカラス然ルニ今ノ計算ハ大小平均シタ
ルモノナルカ故ニ立木過疎ノ感ヲシム猶此外年々百般ノ事業ニ探伐スルモノアリ
又火災ノ爲メ島有ニ歸スルモノアリ此ノ繼植スヘキ地ハ姑ク措テ目下ノ無立木地即
チ三百五十萬町歩ニ就テ論スルニ此中栽培スヘカラス地及自然ノ稚木ヲ保護シテ更
ニ栽植ヲ要セサルモ凡百萬町歩トスレハ餘ヌ所三百五十萬町歩ナリ二百五十萬町歩
ノ植樹費ハ幾許ヲ要スルカヲ計算スルニ一坪ニ付一本半ヲ栽植スルモノトスレハ此
本數二百二十一萬本一本ノ代價栽植ヲ併セテ金五厘トシ一億千十萬圓ノ巨額ニ騰
レリ由之觀之山林百般ノ經費ヲ除キ年々新植費ノミニ百萬圓ノ巨額ヲ投スルモ尙且
百十二年ノ歲月ヲ費サ、ル可ラス政府ハ山林百般ノ經費ノ外猶年々百萬圓ノ巨額ヲ

山林ニ給シ得ヘキ因果シテ之ヲ給シ得ルモ百十二年ノ後チニ非ラサレハ原野ニ手ヲ
下ス可ラス如何ソ手ヲ束子テ百年ノ後ヲ待ツヘケンヤ然ラハ則必要必需ノ地ヲ存シ
其ノ他ハ人民ヲシテ栽植セシムルノ外他ノ策ヲキテ信スルナリ
夫レ人民ヲシテ栽植セシメシカ如何ナル方法ヲ以テスヘキカ夫レ利益ヲ欲スルハ人
ノ常情ナリ利益ヲ以テ之ヲ導クニ如カス故ニ苟モ樹木ヲ栽植セント欲スル者アルハ
ハ先近傍比準ノ地價百分ノ五内至八分マテテ借地料トシ十ヶ年亦ハ卅ヶ年期トシテ
之レカ借地ヲ許シ培養栽植保護其宜キヲ得功勞ノ著シキ者ハ索地相當ノ代價ヲ以テ
此レヲ拂下ナハ人々必ス植林ノ念ヲ振作ス可シ果シテ然ラハ不用ノ地ハ轉シテ有用
トナリ秃阜瓦山變シテ蒼蒼勃鬱ノ森林タルニ至リナハ國家ノ富饒ヲ致シ人生ノ利用
ヲ厚スル期シテ待スヘキナリ
因ニ曰ク茨城縣久慈郡櫻初村平民鈴木仙太郎武子善之介東茨城郡上野合村秋葉茂
氏ヨリ第一回議會ヨリ第二第三回迄貴衆兩院ヘ山林制度請願書ヲ呈出シ今其概略
ヲ摘擧スレハ左ノ如シ

山林制度改正之儀請願

茨城縣常陸國久慈郡多賀那珂東茨城行方新治鹿島北相馬ノ八郡人民渡邊庵太郎櫻岡
敏稻田信左工門荒井軍司菊池秀彦秋葉茂武子善之介茅根孝太郎田村禾幹稻田謙藏中
村源三郎武藤信之介加納甚三郎外千五百八十七人謹ンテ貴衆兩院へ請願ス
伏シテ惟ルニ我カ帝國ノ地勢タル數多ノ群島ヨリ成立シ南北ノ廣サ北緯二十四度六
分ヨリ五十度五十六分ニ至ル東西ノ長サ東徑十六度四十七分ヨリ西徑十七度ニ至ル
而シテ高山大岳其中央ニ蜿蜒シ平原其兩端ニ出入ス故ニ氣候タル地相距ル甚々遠カ
ラサルモ頗ル寒温ノ差ヲ殊ニシ全國ノ氣候極メテ一機ナラス之即チ吾カ帝國カ熱温
兩帶ノ植物ヲ有スル所以ナリ加之ノミナラス地承肥沃降雨ノ量多キカ故兩端ハ平原
ハ勿論六千尺餘ノ高峯崇岳及ヒ深谷ニ至ルマテ天然林ニ乏シカラス吾カ國森林ノ適
應スルヲ以テ知ルヘキナリ 故ニ古代ヨリ林務ノ忽カセニスヘカラサルヲ察知シ之
レニ力ヲ盡クシ爲政家少カラス又山林家園藝家ニ至リテモ能ク上旨ヲ体シ實地ニツ
イテ適當ノ方法ヲ工夫シ以テ天與ヲ山林ヲ維持シ併セテ之レカ繁殖ヲ圖レリ之レヲ

以テ當時山林ニ從事スルモノ縱令理論ニ明カナラサルモ而カモ實地ノ熟練ニ至リテ
ハ遙カニ西人ノ企及スヘカラサルモノ有シナリ 就中此制度タル徳川時代ニ於テ最
モ嚴密ヲ加エ諸侯ハ各領地ニ實施スヘキ法規ヲ設ケ制度秩然頗ル見ルヘキモノアリ
水戸藩ノ如キハ其尤モナリシモノナリト雖モ此善制トハ幕府ノ瓦解共ニ全
廢シテ今日ニ存セス

維新以來政府ハ大ニ茲ニ見ル所アリ中央ニ山林局ヲ置キ各地ニ林区署ヲ置キ其責ヲ
負擔セリ全國ノ山林ハ現ニ此局ノ管理スル所ナリト雖モ細カニ實地ニツイテ其實跡
ヲ考フレハ法文密ニ過キ制度繁ニ流レ費用從フテ多ク其管理保護ノ周到ナラズ却テ
盜伐出火等咎々付シナリ依テ大ニ維新前ニ及ハサルモノアリ之レ蓋シ制度ノ國情ニ
適セサルニヨラスンハアラス

徳川時代各舊藩ノ法規ハ能ク盜伐ヲ防キ森林ノ栽培繁殖ニ能ク意ヲ注キ官民一致シ
テ以テ國利民福ヲ詢ラシムル要點アルヲ得タリ故ニ冀クハ地方自治ノ精神ヲ基キ維
新前ノ山林制度ヲ參酌シ以テ現行ノ山林制度ニ一大改正ヲ加エラレンコト願フ

ニ堪エス仍テ舊水戸藩外十七藩山林制度參考書及改正法案一部冊ヲ添テ帝國憲法第三十條ニ依リ謹ンテ請願書ヲ呈ス秋葉茂鈴木仙太郎外千五百八十七人頓首敬白

明治二十四年十一月

茨城縣久慈郡久慈村

渡邊庵太郎印

茨城縣東茨城郡上野台村大字秋葉

士族農 秋葉茂印

全縣全郡全村大字鳥羽田

平民農 鳥羽田恒之介印

全縣久慈郡機初村大字三才

平民農 鈴木仙太郎印

茨城縣北相馬郡小文間村

岡田未之介印

茨城縣鹿嶋郡巴村

中根實印

全縣新治郡小柳村

山田藤次郎印

全縣久慈郡河内村

大森林藏印

衆議院議長中嶋信行殿

趣旨書

全國ノ官林ハ現時農商務省ノ管轄ニ屬シ大小林区署ヲ置キ專ラ其保護栽培伐採等ヲ主掌セシムルノ制度ナレモ元來森林ノ事業タルヤ直接利害ヲ享有スル所ノ地方自治体ヲシテ管理相當セシムルハ保護栽培ノ實周到ニシ且其費用ニ於ケルモ官府自ラ管掌スルニ比スレハ大ニ節減シ却テ有効的ニ使用スルヲ益スルヲ以テ官林ノ事業ハ凡テ之ヲ地方自治体ニ委任スルヲ可トス然リト雖今遽カニ全國ノ官林ヲ市町村ノ財產ニ移スルハ勢ヒ該事業ヲシテ市町村會ニ容喙セシメサルヲ得ス若シ市町村會ノ容

啄スル所ナルルルハ今日ノ民度ニ於テ或ハ盜伐放棄ノ弊ニ陥ルヲナキヲ保シ難シ依テ
 茲ニ其衰ヲ折シ官林ハ市町村制ノ法條ニ依リ市町村林務委員官事務ヲ有シ保護裁
 培伐採ノ事業ヲ當ラシメ官廳之ヲ監督シ實際ニ適合セシメントス而シテ其官林組合
 ノ法方及ヒ市町村林務委員ノ撰擇若クハ官林ノ保護栽培伐採方法等々如キニ至リテ
 ハ重モニ舊藩ノ林制ヲ斟酌シテ之ヲ制定スルヲ可トス
 改正官林法綱目ニ關シテハ其詳ハ別表ニ示ス
 一現時農商務省山林局ニ於テ管轄スル所ノ全官林ハ市制第七十四條第四項町村制第
 六十九條第三項ノ趣旨ニテ地方自治體ニ屬スル事務トシテ市町村長ヲシテ管轄セシ
 ム
 一從來ノ慣行若クハ橋梁堰埭林場等ノ關係ヨリ其利害ヲ共ニスル市町村ヲ適宜聯合
 シテ官林組合ヲ設置ス
 一官林ノ保護 下草刈取栽培 苗木仕立損 伐採 輪伐下枝 總テ市町村ヲシテ負擔セシム
 野火除木栽培 木植繼等 拆透伐等
 一官林ノ保護栽培伐採ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監

督シ第三次ニ於テ農商務大臣之ヲ監督ス
 一官林ノ監督及保護栽培ニ關スル經費ハ總テ官林ノ諸收入輪伐木枯損木制產物賣却
 等金ヲ以テ支辨ス
 一官林組合内市町村ノ學校道路橋梁堰埭等公益ニ關スル工事ヲ起ス并ハ相當賠償ヲ
 辦法ニ由リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其組合官林ノ樹木ヲ拂下シ
 一官林ニ關スル事務ヲ取扱ハシムル爲メ各監督官廳ニ係官吏若干名ヲ置キ又官林組
 合市町村内ニ於テ德望財產ヲ有シ其森林事業ニ經驗アル者ノ若干名ヲ置キ撰擇シ農
 商務大臣ニ於テ其組合ノ林務委員ヲ命ス
 一官林ノ保護栽培伐採ハ總テ組合ノ林務委員ノ協議ヲ經テ監督官廳ヘ具申セシム
 一第一次監督官廳ハ少クモ毎年春秋二回係官吏ヲ所轄内ニ派出シ官林ノ保護栽培等
 ナ巡視セシム
 一壹ヶ所反別五十町歩以上ノ官有原野山岳等ハ總テ官林ニ編入シ市町村區有財產
 下シテ部分林ヲ定メ漸次繁殖方法ヲ設ケシム

一禁伐林水源涵養土砂扞止風防潮除林等社寺境外林等ハ別段ノ制度ニヨラシム可シ
二監督官廳ハ官林ノ保護栽培伐採ニ關スル諸規則ヲ制定發布ス可シ
記ニ曰ク米國山林事業ヲ調査スルニ概子左ノ如シ

米國山林事務

山林ノ事務ハ毎年盛大チ示シ「カクホルニヤ」洲ヨリ山林年報書ハ殆ント二百枚ノ大
部ヲ作山林區地圖ヲ區別シ植木ノ種類ヲ分チ實際明察セシメ或ハ山林繁茂及官地等
ハ差別影畫シ之ヲ報告書ニ載セ其書冊始メテ三分一ハ山林委員ノ事務施行ヲ記シ
山林伐木規則ハ山林委員ニ於テ之ヲ執行ス山林事業ヲ地方委員ニテ執行スルニ至リ
然シテ地方山林委員ニ於テ山林費用ヲ實施豫算スルニ至リ之レ政府ニ比スレハ山林
經費十分ノ九ヲ減スルニ至レリ地方山林委員ハ宜シク地方ノ地理風土等キ明カニシ
テ地方適宜ノ植木ヲ撰ミ「カリホルニヤ」洲ノ如キ專ラ樅木ヲ成木スルニ適當スルノ
地ヲ辨
米國東口ヲタ洲山林調査報告ハ二ヶ年チ一回トナシ山林ノ實況ハ深ク注意ヲ遂ケ委

シク地圖ニ認メ該地方植物生質ヲ報シ山林ノ盛衰ヲ知ヌンカ爲メ繁生成木ノ區別チ
立テ亦減木種類ヲ明ニス 米國ミシコン洲山林委員ハ山火防禦ノ一ヲ以テ最モ注意
スヘキモノトス嘗洲中ニ一千ノ伐木水車器械場アリ其資本金四千八百萬弗其生産ノ
價六千萬弗ナリ之カ爲メ三萬五千人ノ勞働者アリ 米國新育洲ハ材木運搬ノ爲メ最
モ良地位ヲ占ムルト雖州則ノ不長ナルヨリ山林ノ事業大ニ不便チ生ス

米國チハヨ一州ハ洲廳ニ山林課ヲ置キ山林事業ヲ人民ニ教育セシメンカ爲メ師範
學校及公立學校ニ於テ山林ノ事ヲ講セシメ毎年植木日ヲ設ケ此ノ日州知事ヨリ洲内
人民一般ニ布達シ他ノ業ヲ休シ全ク諸木ヲ植付ノ日ト定ム

米國メイン洲ハ山林集會ナルモノヲ全州各部ニ設ケ毎年一度全州ノ山林有志家集會
シテ其ノ會頭ヲ選ミ會頭ハ山林伐木及植付其他山林進歩ノ一ニ付米國大統領及國會
ヘ忠告進達ノ道ヲ開カシメ亦全國山林ノ盛衰ヲ知リ嘗洲ノ山林ノ盛大ヲ勉ムヘシ
米國ペンシベニア州山林集會社ハ他ノ洲ト違ヒ山林事業ヲ成就セシカ爲メ其機關トシ
テ山林演說ヲ州内ニ開キ輿論ヲシテ山林事業ヲ活潑ニシ又政府ノ保護ヲ要セン一ヲ

説ク

青森縣上北郡横濱村々長横濱正藏外十五名本年五月九日貴衆兩院へ呈出シ貴族院ニ於テハ請願書ヲ採擇シテ政府へ送致スルイニ可決シ衆議院ハ余日ナクシテ議決セス今意見書ノ大要ヲ擧ケレハ

山林制度改正ノ件

第一青森縣上北郡横濱村々長横濱正藏外十五名呈出

外一通

右請願ニ通ノ大要ハ政府ハ畫一ノ制度ヲ設ケ大小林區署ヲ地方ニ置キテ全國ノ官林ヲ直轄セシム其制度ハ備ハルカ如シト雖モ先例舊慣ヲ斟酌セラレス之レカ爲メニ從來山林ノ餘澤ニ賴レル山下ノ村落ハ年々逐フテ凋弊セリ舊弘前藩ノ如キハ官民其利益ヲ同シ山下ノ村ハ官林保管ノ責任ヲ負ヒ其報酬トシテ薪炭材ヲ伐採シ水火災ニ罹リ又ハ劣作等ニ際シテハ良材ヲ伐ルノ特典ヲ受ケ山林繁茂スル時ハ勸賞トシテ特ニ伐採ヲ許可セザル、等官ノ費ス所寡クシテ民其澤ヲ享ケ而シテ山林ハ常ニ繁茂セリ

而ルニ現制度ニ於テハ山林ハ山下ノ村落ト相關スル所ナク林區署ハ國家ノ爲メヲ計ルニアラスシテ單ニ政府ノ收入ヲ計ルノ觀アリ禁網益々密ニシテ法ニ觸ル、モノ益々多シ偶々一束ノ枯草ヲ刈一杯ノ土ヲ取ルモ尙ホ輕罪ニ問ハル、ヲ免カレス此ニ於テ其弊ノ極マル所官民反目シテ盜伐愈々興ル其延燒スルコト尤モ人民相救ハス如之官林伐採ノ度往々民間ノ需用ト相應セス故ニ價格ニ非常即低テ生スルノミナラス其缺乏スルニ當リテハ人民直ニ非常ノ困ナンテ感セサルヲ得ス抑々青森縣ハ從來檜材ヲ以テ一ノ物産トシ諸國ニ輸出セシ國ナルニ今ヤ縣下ノ需用ヲ充タスニ足ラス是皆ナ制度宜シキヲ得サルニヨレリ若シ今日ニテ速ニ適當ノ處置ヲ施サズンハ獨山下村落ノ衰弊流離ノ慘狀ニ陥ルノミナラス數十年ノ後山林ノ憂ヒ此レヨリ大ナルモノアラシ蓋シ是レヲ救フノ道ニツアリ曰ク大小林區署ノ管轄ヲ解キテ地方官廳ニ屬セシムルト曰ク官民共益ノ目的ヲ以テ山林保護ノ本ヲ立ツルト是ナリ其組織ハ六要ヲ擧ケレハ各郡市ヨリ互選ヲ以テ町村長ノ内ヨリ三四名及郡市總代一兩名ツ、ヲ府縣廳へ招集シ事實慣例ヲ取調ヘシメ且輿論ヲ以テ下調セシムルト郡長市長及市書

記若十名ツ、ヲ府縣廳ニ招集シテ前項ノ取調ヲ審理セシムルコト府縣會ニ諮問シ審議ノ上答案セシムルコト前項ノ答案ヘ府縣知事ハ意見書ヲ附シ内閣ヘ申スルコト内閣ニ於テハ府縣知事ノ上申ヲ取調ヘ大日本農會及商法會議所ニ諮問シテ答申セシムルコト内閣ニ於テ府縣知事及大日本農會商法會議所ノ意見ヲ參酌詮議シ案ヲ備エテ帝國議會ヘ提出シ制度ヲ立ツルコトナク又取扱細則ハ府縣ニ標準ヲ示シ適宜ニ府縣令達ヲ發布セシムルコト以上ハ山下ノ民自救ノ策ニシテ且國家ノ利益ナリト信スル方法ナリ慈ニ關係各村會ノ決議ヲ經テ之レヲ衰願スト云フニ在リ

澳國山林法律

- 第一暴風及轉落スル岸石又ハ雪崩ニ對シ防禦ヲ爲ス
- 第二山嶺山腹及山間谿谷ノ土壤扞止又ハ洞坑急流ノ創造及細砂ノ流離轉運ヲ防禦ノ爲メ
- 第三水源涵養ノ爲メ
- 第四道路橋梁鐵道及ヒ他ノ交通線ヲ防禦スル爲メ

第五衛生保護ヲ爲メ

- 第六伐盡シテ隣山ニ風害ヲ受ケシムルノ林ハ之レヲ伐盡スルヲ禁ス但シ此ノ如キ林ニハ狹クモ三寸クワヲテ幅ヲ樹ヲ存シテ之ヲ所謂防風垣ト云フ而シテ規則ノ如ク隣山伐木ノ期ニ及ムル并此防風垣ヲ伐ラシメ之ヲ伐盡コトハ只遊伐許シテ一般ニ伐ルコトヲ許サズ
- 第七國家公私有利害ニ關スル山林警備雪塊巖石轉顛及山崩等ノ防禦トナルモノハ必ス存セサル可ラサルヲ以テ國家ノ爲メニ其制ヲ政府ヨリ指令シ以テ樹木ヲ存シ置クヤシ此ノ山林ノ制ヲ過マル并ハ心ス其掟ニ從ヒ處置アルハシ此ノ如キ林ヲ扱上世ノハ誓フテ其掟ヲ守リ若シ事アル并ハ自ら其責任ヲ負ハシ
- 第八除地トナスコトハ組合ノ者官吏及其地ニ關係アル者其他又監視官ヨリ識者ヲ招ヒテ盡ク此ニ會シ若シ監視官無地ニ於テハ區長ヨリ識者ヲ招キ之ヲ定ムヘシ區長其他關係人識者等ノ集會ヲ以テ除地相定ル并ハ「クイーンホルスツング」全ク禁止ス若シ從前ノ除地ヲ止ムルコトアル即チ前條ノ集會シテ亦之ヲ定ム

記若干名ツ、ヲ府縣廳ニ招集シテ前項ノ取調ヲ審理セシムルコト府縣會ニ諮問シ審議ノ上答案セシムルコト前項ノ答案ハ府縣知事ハ意見書ヲ附シ内閣ヘ上申スルコト内閣ニ於テハ府縣知事ノ上申ヲ取調ヘ大日本農會及商法會議所ニ諮問シテ答申セシムルコト内閣ニ於テ府縣知事及大日本農會商法會議所ノ意見ヲ參酌詮議シ案ヲ備エテ帝國議會ヘ提出シ制度ヲ立ツルコト又取扱細則ハ府縣ニ標準ヲ示シ適宜ニ府縣令達ヲ發布セシムルコト以上ハ山下ノ民自救ノ策ニシテ且國家ノ利益ナリト信スル方法ナリ茲ニ關係各村會ノ決議ヲ經テ之レヲ裁願スト云フニ在リ

澳國山林法律

- 第一暴風及轉落スル岸石又ハ雪崩ニ對シ防禦ヲ爲ス
- 第二山嶺山腹及山間谿谷ノ土壤扞止又ハ洞坑急流ノ創造及細砂ノ流離轉運ヲ防禦ノ爲メ
- 第三水源涵養ノ爲メ
- 第四道路橋梁鐵道及ヒ他ノ交通線ヲ防禦スル爲メ

- 第五衛生保護ノ爲メ
- 第六伐盡シテ隣山ニ風害ヲ受ケシムルノ林ハ之レヲ伐盡スルヲ禁ス但シ此ノ如キ林ニハ狹クモ二十クワフテル幅ヲ樹ヲ存シテ之ヲ所謂防風垣ト云フ而シテ規則ノ如ク隣山伐木ノ期ニ及ハル并此防風垣ヲ伐ラシメ之ヲ伐盡コトハ只濫伐ヲ許シテ一般ニ伐ルコトヲ許サズ
- 第七國家公私ノ利害ニ關スル山林警備警備巖石ノ轉顛及山崩等ノ防禦トナルモノハ必ス存セサル可ラサルヲ以テ國家ノ爲メニ其制ヲ政府ヨリ指令シ以テ樹木ヲ存シ置クヤシ此ノ山林ノ制ヲ過マル并ハ心ス其控ニ從ヒ處置アルハシ此ノ如キ林ヲ扱フモノハ誓フテ集控ヲ守リ若シ事アル并ハ迫テ其責任ヲ負ハシムルコトヲ規定ス
- 第八除地トナスコトハ組合ノ者官吏及其地ニ關係アル者其他又監視官ヨリ識者ヲ招ヒテ盡ク此ニ會シ若シ監視官無地ニ於テハ區長ヨリ識者ヲ招キ之ヲ定ムヘシ區長其他關係人識者等ノ集會ヲ以テ除地相定ル并ハ「アイシホルスツング」全條禁止ス若シ從前ノ除地ヲ止ムルコトアル即チ前條ノ集會シテ亦之ヲ定ム

位置

何レノ場所ニ成木シアルヤ其土地平面ナルヤ澤谷ナルヤ或ハ何ノ方角ニ傾キ如何ナル斜ナルヤ其地景ヲ靜激サモ區別スヘシ

土地

土地ノ色ヲ首メ其地ノ肥瘠ヲ明ニシ其地ノ生質即チ粘土砂質土細石細微亦如何ナル附屬地ナルヤ

空氣

山林場所沼地ナルヤ濕氣ナルヤ亦川路泉池等ニ接近スルヤ

地面

地面ハ何ノ草及新草ヲ生スルヤ其地面ハ苔ノ生茂ナルヤ裸ナルヤ或ハ灌木叢ク而シテ其ノ重立タル種類ヲ指名スヘシ

杉樹培養方法

杉苗ハ春分ノ候ニ移植スルヲ最モ良トス故ニ小麥ノ花盛リノ時ヲ日當トシテ移植ス

レハ枯衰ノ患ナキノミナラス其成長別シテ其シキナリ然レバ土地阜濕ナルカ或ハ赤色爐土ニシテ草木ノ繁茂セサル處カ又ハ砂地ナトニ於テハ其成長遲遠シテ根際ヨリ技ヲ生シ良材ヲ得ル能ハス移植ノ後二三年間ハ其下草ヲ刈取ラスシテ其儘置クヲ良法トス然ラサレハ日光其根照射スル爲メニ杉ノ衰弱ヲ來タシ或ハ虫害ヲ受ケルコトアリ先四五年間ハ可成其技ヲ伐リ採スシテ其幹ヲ榮養セシムルコト肝要ナリ

森林地材量薪炭材統計

大日本拾六大林區署ニ屬スル森林地面積ハ凡ソ五百四十九萬〇六百〇一町六反〇〇壹步ニシテ此ノ地面ニ生立スル樹木材量ノ用材四億七千八百七十六萬千七百五十七尺〇七二尺_{〔尺ハ八角二間〕}薪炭材七千四百四十九萬千二百七十六捆八七八_{〔一捆ハ六尺六方トス〕}束數百三十六萬四千〇三十三束九五九_{〔壹束ハ三尺〕}今此ノ薪炭材ノ捆ノ部分チ一捆チ十二尺_{〔最モ少額ニ見積リシヤ〕}改算スルモ其額八億五千七百八十九萬五千三百六十二尺_{〔尺ハ七三六ニシテ之レニ用材尺ゲテ合計スルハ總計尺ハ十三億三千六百六十五萬七千二百二十尺ハ〇四九ヲ得ル今又此ノ用材量ヲ輪伐材齡ニ除シ得タル所ノ毎年伐採ス}

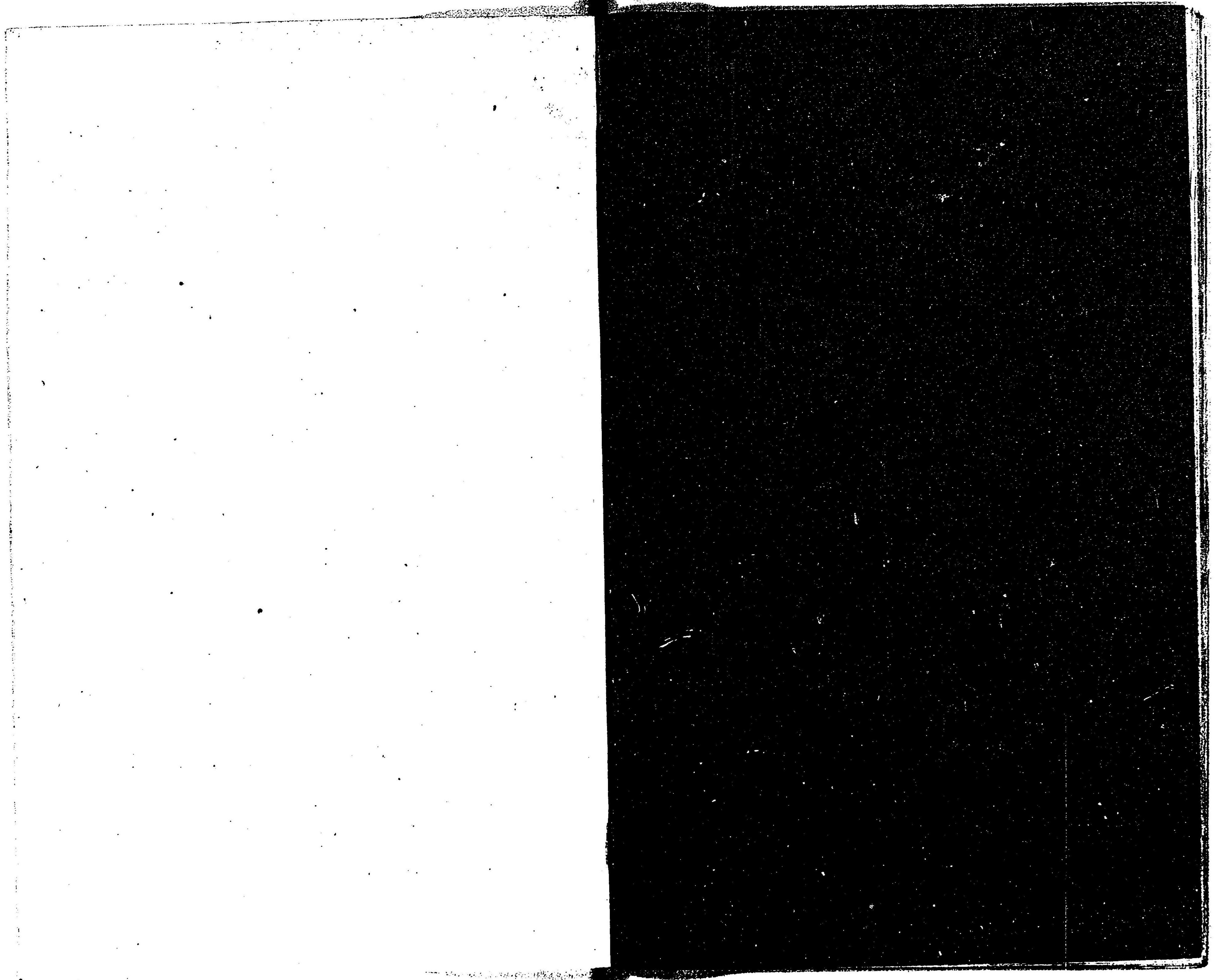
ハキ材量ヲ見ルニ用材四百十九萬三千二百五十二尺六六九六薪炭材二百三十二萬七千八百八十棚四一ニト三萬四千八百五十五束ニ七一アリ今前同機尺ニ改算スルハ八七二千七百九十三萬四千五百六十四尺九四四トナリ即チ此レニ用材ヲ合スレハ總計三千三百十二萬七千七百八十七尺六四〇トナル故ニ一町歩ノ平均伐採高チ見ルニ五尺八八五五餘ニシテ總全額ニ當リ木曾帝室ニ比較スレハ凡ソ七十二倍余ナリ但シ沖繩縣札幌北海道廳ニ屬スル森林材量ハ算出セズ

北海道森林五百九十七萬三千六百三十四町ニシテ内細料林二百萬十町歩官林三百九十五萬九千九百九十町民林一萬三千六百三十四町ナリ樹木種數ハ三十八科百七十九種ニシテ建築用ニ共スル種ナルモノハ十八種其内潤葉木ニテハ(カツラ)(イタヤ)(コナシ)(針葉木ニテハ)(トウマツ)(スギ)(マツ)(コナシ)類トシテフナリ

人口概算表

東京府	人口九十八萬七千八百八十四人
京都府	人口八十三萬五千二百十五人
大阪府	人口百五十七萬二千三百三十八人
神奈川縣	人口七十九萬七千三百三十五人

兵庫縣	人口九百四十一萬九千四百二十一人	長崎縣	人口百三十萬四千四百十九人	新潟縣	人口百五十八萬千六百八十八人	埼玉縣	人口九十六萬二千七百十七人
群馬縣	人口六十萬四千八百八十二人	茨城縣	人口九十一萬六千七百二十一人	栃木縣	人口六十萬六千六百七十七人	三重縣	人口八十五萬七千八百八十七人
千葉縣	人口百一十一萬七千六百九十六人	愛知縣	人口百三十三萬二千五百一十人	靜岡縣	人口九十八萬七百九十三人	山梨縣	人口四十萬九千九百廿九人
滋賀縣	人口六十三萬三千四百四十七人	宮城縣	人口六十二萬九千二百八十六人	岩手縣	人口六十萬五千五百廿八人	青森縣	人口四十一萬七千六百八十七人
岐阜縣	人口八十五萬五千五百五十七人	秋田縣	人口六十二萬八千四百三十五人	富山縣	人口五十七萬七千七百七十七人	山岡縣	人口百一萬九千六百七十四人
長野縣	人口百二萬二千四百八十八人	山形縣	人口六十九萬三千三百二十一人	根室縣	人口七十九萬三千五百五十五人	廣島縣	人口百廿四萬三千三十二人
福井縣	人口八十二萬九千九百九十八人	石川縣	人口百四十萬二千八百一十人	鳥取縣	人口三十八萬九百九十五人	山口縣	人口八十八萬八千九百四十四人
和歌山縣	人口六十萬六千七百五十四人	福岡縣	人口百一十一萬八千六百五十二人	宮崎縣	人口五十一萬六千八百六十八人	沖繩縣	人口三十五萬八千八百八十八人



彦
21

1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

産
21

203275-000-8

産 - 2 1

日本山林制度論

鈴木 桂蔵 / 著

M25

EDK-0193



3/85

縣媛慶	縣知高	縣島德	縣分大	縣本熊	縣井福	道海北
人口百四十七萬 二千六百八十人	人口五十四萬六 千六百四十二人	人口六千四萬二 千七百七十四人	人口七十四萬一 千二百人	人口九十九萬三 千三百七十三人	人口六十六萬九 千四百十人	人口百七十七萬 九百一人
鹿兒島縣 人口百二十九萬二 千八百一十一人	縣賀佐 人口五十六萬三千 九百人			縣川香 人口五十七萬七 千九百人	縣長奈 人口五十五萬三千 九百人	總計四、五三、四六一人

正 誤

一頁七行遠國ハ圖三頁三行策盡ハ書四頁十行事スルハ關スル九頁十二行氏ノ下ハ外
 數多ノ三字ヲ脱ス十頁九行地承ハ味十一頁四行長ノ下ハ習ノ一字ヲ脱ス十三頁三行
 藤次郎ハ太又大森林藏ノ次へ(以下連名客ス)ノ六字ヲ脱ス又十行相當ハ担十四頁七
 行全ノ下國ノ一字ヲ脱ス十五頁十二行官林地ハハハ廿四頁五行帝室ノ下ハ林ノ一字
 ヲ脱ス又東京府人口數ハ兵庫縣ノ分ニシテ兵庫縣ノ人口數ハ東京府ノ分ニシテ孰レ
 モ誤植